(19)日本国特許庁(JP)

(12)特許公報(B2)

(11)特許番号
特許第7350266号
(P7350266)

(45)発行日　令和5年9月26日(2023.9.26)

(24)登録日　令和5年9月15日(2023.9.15)

(51)国際特許分類
Ａ４７Ｋ　7/02　(2006.01)

ＦＩ
Ａ４７Ｋ　7/02　Ｃ

請求項の数　6　（全11頁）

(21)出願番号　特願2021-170632(P2021-170632)
(22)出願日　令和3年10月19日(2021.10.19)
(65)公開番号　特開2023-60942(P2023-60942A)
(43)公開日　令和5年5月1日(2023.5.1)
審査請求日　令和4年7月19日(2022.7.19)

(73)特許権者　391007758
キクロン株式会社
和歌山県和歌山市森小手穂１２８番地
(73)特許権者　512112231
秋山 知広
大阪府堺市西区浜寺諏訪森町東２丁１８６－３
(74)代理人　100076406
弁理士　杉本 勝徳
(74)代理人　100171941
弁理士　辻 忠行
(74)代理人　100150762
弁理士　阿野 清孝
(72)発明者　秋山 知広
大阪府堺市西区浜寺諏訪森町東２丁１８
最終頁に続く

(54)【発明の名称】　ボディタオル

(57)【特許請求の範囲】
【請求項１】
丸編みにより平編組織に編まれて、筒状に形成されたボディタオルであって、
少なくともパイル編地及びクリンプ編地が長手方向に対してらせん状に配列され、
前記長手方向の両端が開口し前記両端にそれぞれ解れ止めが縫製されて開口部が形成されており、
前記開口部により表裏反転して使用可能としたことを特徴とするボディタオル。
【請求項２】
前記パイル編地及び前記クリンプ編地に、さらに紡績糸又はフィラメント糸が編まれた第三編地が長手方向に対してらせん状に配列されていることを特徴とする請求項１に記載のボディタオル。
【請求項３】
前記パイル編地は、芯糸と、前記芯糸の周りに多数のループが形成される花糸と、前記花糸の上から巻きつけられる押さえ糸とを備えた意匠撚糸を用いて編成されており、
前記クリンプ編地は、前記意匠撚糸の太さよりも細い糸にクリンプが付与されたクリンプ糸を用いて編成されており、
前記クリンプ編地のコース数は、前記パイル編地のコース数よりも多く形成されていることを特徴とする請求項１又は２に記載のボディタオル。
【請求項４】
前記クリンプ編地のコース数は２～１６であり、前記パイル編地のコース数は１～３で

あることを特徴とする請求項３に記載のボディタオル。
【請求項５】
前記パイル編地における前記芯糸、前記花糸及び前記押さえ糸はいずれもポリエステル繊維から形成されており、
前記クリンプ編地における前記クリンプ糸はポリエステル繊維又はナイロン繊維から形成されていることを特徴とする請求項３又は４に記載のボディタオル。
【請求項６】
５～１５ウエール毎に１ウエールが針抜きされた編地とされていることを特徴とする請求項１～５のいずれかに記載のボディタオル。
【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本発明は、丸編みにより筒状に形成されたボディタオルに係り、特に、平編組織に編まれて長手方向の両端にそれぞれ解れ止めが縫製されて開口部が形成され、開口部により表裏反転して使用可能としたボディタオルに関する技術である。
【背景技術】
【０００２】
従来、入浴時に使用されるボディタオルなどのタオルは、機能の異なる各種のものが知られている（例えば、特許文献１～特許文献６参照）。
特許文献１に記載のボディタオルは、表裏二重の編地が周縁部において一体化され、泡立ち性に優れ、肌触りを柔らかくしてものである。
【０００３】
特許文献２に記載のボディタオルは、丸編筒状の天然繊維の外布部の内部に合成繊維の内布部を配置して一体に形成し、肌に対して優しく、泡立ちをよくしたものである。
特許文献３に記載の浴用マッサージタオルは、筒状タオルの中にスポンジや硬めのボール状のものを入れて、手の届きにくい身体部分を洗い易くし、マッサージ効果を得られるようにしたものである。
【０００４】
特許文献４に記載のボディタオルは、丸編みで筒状に編成された外側編地部の筒部内に、丸編筒状の化学繊維糸で編成された内側編地部を配置して両端部で接合され、外側編地部は意匠撚糸で編成されるパイル編地部と、ループが形成されていない基礎編地部が交互に編成され、内側編地部と外側編地部とで大量の泡立ちができるようにしたものである。
特許文献５に記載の筒状タオルは、丸編みニット生地を折り返して二重構造にし、頭髪用高吸水性としたものである。
【０００５】
特許文献６に記載のバスタオルは、丸編みにより弾性糸が挿入されて表面がパイル地の両端開口に編成され、入浴後の着用が容易に行えるようにしたものである。
【先行技術文献】
【特許文献】
【０００６】
【文献】特許第４６１６２２１号公報
特開２０１５－１４４７８４号公報
特開２０００－２８７８７０号公報
特許第６４１９４８９号公報
実用新案登録第２５６６４２７号公報
特開２００４－９７３０７号公報
【発明の概要】
【発明が解決しようとする課題】
【０００７】
特許文献１に記載されたボディタオルは、表裏２面の特性を有するように、一方の面は

泡立ち効果のあるスポンジ、他方の面は天然繊維を表面に出した表裏二重の編地を周縁部で一体化する構成であり、構造が複雑で高価であるという課題があった。
特許文献２に記載されたボディタオルは、泡立ちをよくするために合成繊維製の内布部を外布部の内部に配置して一体化しなければならず、内布部が余分に必要となり、高価で使用洗濯後の干し時間も長くかかるという課題があった。
【０００８】
特許文献３に記載された浴用マッサージタオルは、筒状タオルにおける中にボール状のものが配置された外側部分が身体の洗浄部となり、タオル全体を利用し難く汎用性に欠けるという課題があった。
特許文献４に記載されたボディタオルは、内側編地部が余分に必要であり、高価であるとともに、使用洗濯後の干し時間が長くかかるという課題があった。
【０００９】
特許文献５に記載された筒状タオルは、頭髪用高吸水性の機能があるが、浴用のボディタオルとしての機能に欠けるという課題があった。
特許文献６に記載されたバスタオルは、入浴後の着用には良好であるが、入浴時のボディタオルには使用し難いという課題があった。
【００１０】
本発明は、このような従来の構成が有していた課題を解決しようとするものであり、丸編みにより平編組織に編まれて、筒状に形成されたボディタオルであって、長手方向の両端にそれぞれ解れ止めが縫製されて開口部が形成され、開口部により表裏反転して使用可能として、２種の使用時の肌触りの選択ができるようにすることを目的としている。
【課題を解決するための手段】
【００１１】
請求項１に係る本発明のボディタオルは、丸編みにより平編組織に編まれて、筒状に形成されたボディタオルであって、
少なくともパイル編地及びクリンプ編地が長手方向に対してらせん状に配列され、
前記長手方向の両端が開口し前記両端にそれぞれ解れ止めが縫製されて開口部が形成されており、
前記開口部により表裏反転して使用可能としたものである。
【００１２】
請求項２に係る本発明のボディタオルは、請求項１に係る本発明のボディタオルの構成に加え、前記パイル編地及び前記クリンプ編地に、さらに紡績糸又はフィラメント糸が編まれた第三編地が長手方向に対してらせん状に配列されているのものである。
【００１３】
請求項３に係る本発明のボディタオルは、請求項１又は２に係る本発明のボディタオルの構成に加え、前記パイル編地は、芯糸と、前記芯糸の周りに多数のループが形成される花糸と、前記花糸の上から巻きつけられる押さえ糸とを備えた意匠撚糸を用いて編成されており、
前記クリンプ編地は、前記意匠撚糸の太さよりも細い糸にクリンプが付与されたクリンプ糸を用いて編成されており、
前記クリンプ編地のコース数は、前記パイル編地のコース数よりも多く形成されているものである。
【００１４】
請求項４に係る本発明のボディタオルは、請求項３に係る本発明のボディタオルの構成に加え、前記クリンプ編地のコース数は２～１６であり、前記パイル編地のコース数は１～３としたものである。
【００１５】
請求項５に係る本発明のボディタオルは、請求項３又は４に係る本発明のボディタオルの構成に加え、前記パイル編地における前記芯糸、前記花糸及び前記押さえ糸はいずれもポリエステル繊維から形成されており、

前記クリンプ編地における前記クリンプ糸はポリエステル繊維又はナイロン繊維から形成されているものである。

【００１６】

請求項６に係る本発明のボディタオルは、請求項１～５のいずれかに係る本発明のボディタオルの構成に加え、５～１５ウエール毎に１ウエールが針抜きされた編地とされているものである。

【発明の効果】

【００１７】

請求項１に係る本発明のボディタオルは、丸編みにより平編組織に編まれて、筒状に形成されたボディタオルであって、少なくともパイル編地及びクリンプ編地が長手方向に対してらせん状に配列され、前記長手方向の両端が開口し前記両端にそれぞれ解れ止めが縫製されて開口部が形成されおり、前記開口部により表裏反転して使用可能としたから、丸編平編組織の特性により、表裏反転して２種の使用時の肌触りの選択ができるのである。

したがって、簡単な構成のボディタオルでありながら、入浴時の状況によって肌触りの使い分けができるとともに、固形又は液体石けんを筒状内部に挿入することで良好な泡立てができるとともに、使用洗濯後の干し時間も短縮できるのである。

【００１８】

請求項２に係る本発明のボディタオルは、請求項１に係る本発明のボディタオルの効果に加え、前記パイル編地及び前記クリンプ編地に、さらに紡績糸又はフィラメント糸が編まれた第三編地が長手方向に対してらせん状に配列されているから、第三編地により、機能の付加ができるのである。

【００１９】

請求項３に係る本発明のボディタオルは、請求項１又は２に係る本発明のボディタオルの効果に加え、前記パイル編地は、芯糸と、前記芯糸の周りに多数のループが形成される花糸と、前記花糸の上から巻きつけられる押さえ糸とを備えた意匠撚糸を用いて編成されており、前記クリンプ編地は、前記意匠撚糸の太さよりも細い糸にクリンプが付与されたクリンプ糸を用いて編成されており、前記クリンプ編地のコース数は、前記パイル編地のコース数よりも多く形成されているから、ボディタオルとしての泡立ち性と肌触り性との両立を図ることができるのである。

【００２０】

請求項４に係る本発明のボディタオルは、請求項３に係る本発明のボディタオルの効果に加え、前記クリンプ編地のコース数は２～１６であり、前記パイル編地のコース数は１～３であるあるから、汎用のボディタオルとすることができるのである。

【００２１】

請求項５に係る本発明のボディタオルは、請求項３又は４に係る本発明のボディタオルの効果に加え、前記パイル編地における前記芯糸、前記花糸及び前記押さえ糸はいずれもポリエステル繊維から形成されており、前記クリンプ編地における前記クリンプ糸はポリエステル繊維又はナイロン繊維から形成されているから、泡立ち性が良好であり、肌触りも適宜の刺激があるのである。

【００２２】

請求項６に係る本発明のボディタオルは、請求項１～５のいずれかに係る本発明のボディタオルの効果に加え、５～１５ウエール毎に１ウエールが針抜きされた編地とされているから、模様としての機能と泡の流通性を高める機能とがあるのである。

【図面の簡単な説明】

【００２３】

【図１】本発明の実施の形態１に係るボディタオルを示す外観概要図である。

【図２】図１の端部の開口部を示す拡大図である。

【図３】本発明の実施の形態１に係るボディタオルの表面を示す部分図であり、（ａ）は自由状態を示す図及び（ｂ）は引っ張り状態を示す図である。

【図４】本発明の実施の形態１に係るボディタオルの裏面を示す部分図であり、（ａ）は

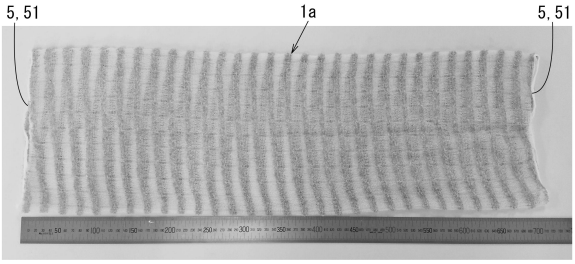
自由状態を示す図及び（ｂ）は引っ張り状態を示す図である。
【図５】本発明の実施の形態１及び２に係るボディタオルの組織を示す説明図であり、（ａ）は表面側及び（ｂ）は裏面側である。
【図６】本発明の実施の形態２に係るボディタオルを示す外観概要図である。
【図７】図６の端部の開口部を示す拡大図である。
【図８】本発明の実施の形態２に係るボディタオルの表面を示す部分図であり、（ａ）は自由状態を示す図及び（ｂ）は引っ張り状態を示す図である。
【図９】本発明の実施の形態２に係るボディタオルの裏面を示す部分図であり、（ａ）は自由状態を示す図及び（ｂ）は引っ張り状態を示す図である。
【発明を実施するための形態】
【００２４】
以下、本発明の実施の形態を添付した図面により詳細に説明する。
図１～図４は本発明の実施の形態１に係る図面、図５は本発明の実施の形態１及び２に係る図面、図６～図９は本発明の実施の形態２に係る図面であり、図１及び図６は本発明の実施の形態１及び２に係るボディタオルを示す外観概要図、図２及び図７は図１及び図６の端部の開口部を示す拡大図、図３及び図８は本発明の実施の形態１及び２に係るボディタオルの表面を示す部分図であり、（ａ）は自由状態を示す図及び（ｂ）は引っ張り状態を示す図、図４及び図９は本発明の実施の形態１及び２に係るボディタオルの裏面を示す部分図であり、（ａ）は自由状態を示す図及び（ｂ）は引っ張り状態を示す図である。
【００２５】
＜実施の形態１＞
図１～図４において、１ａは丸編みにより平編組織に編まれて、筒状に形成されたボディタオルであり、図１に示すように、筒状の空間を密着させた自由状態で、長手方向の長さが約７０ｃｍで、幅が約２３ｃｍに形成されている。
そして、ボディタオル１ａは、パイル編地２及びクリンプ編地３が長手方向に対してらせん状に配列され、長手方向の両端が開口し両端にそれぞれ解れ止め５１が綿糸により縫製されて開口部５が形成され、開口部５により表裏反転して使用可能とされている。
【００２６】
ボディタオル１ａは、長手方向に対して１２コースでらせん状に編成されており、２コースのパイル編地２と１０コースのクリンプ編地３とから編成されている。
パイル編地２は、１２００デニールのポリエステル撚糸であり、芯糸と、芯糸の周りに多数のループが形成される花糸と、花糸の上から巻きつけられる押さえ糸とを備えた意匠撚糸を用いて編成されている。
【００２７】
パイル編地２における芯糸、花糸及び押さえ糸はいずれもポリエステル繊維から形成され、芯糸は４８フィラメントで１５０デニール、花糸は４８フィラメントで１５０デニールの２本からなり、押さえ糸は３６フィラメントで７５デニールである。
クリンプ編地３は、１２フィラメントで２４０デニールのクリンプポリエステル糸を用いており、パイル編地２を形成している意匠撚糸の太さ１２００デニールよりも細い糸にクリンプが付与されたクリンプ糸を用いて編成されている。
【００２８】
そして、１２コースでらせん状に編成されたボディタオル１ａは、図３（ａ）、図４（ａ）において、１コースのパイル編地２と、１コースのクリンプ編地３と、１コースのパイル編地２と、９コースのクリンプ編地３とからなる１２コースの編地２、３が、らせん状に繰り返されている。
このように、パイル編地２は、意匠撚糸を用いて編成されており、クリンプ編地３は、意匠撚糸の太さよりも細い糸にクリンプが付与されたクリンプ糸を用いて編成されており、クリンプ編地３のコース数は、パイル編地２のコース数よりも多く形成され、ボディタオルとしての泡立ち性と肌触り性との両立を図るようにしている。
【００２９】

また、ボディタオル１ａは、１０ウエール毎に１ウエールが針抜きされた編地４とされており、視覚的な模様と使用時の泡の流通の容易化を図っている。
ここで、実施の形態１のボディタオル１ａが、丸編みにより平編組織に編まれ、筒状に形成され、長手方向の両端に形成された開口部５により表裏反転して使用可能としたことによる特徴を図５により説明する。
【００３０】
丸編みによる平編組織は、図５（ａ）の表面側及び図５（ｂ）裏面側に示すように、表裏の編目が異なっており、ボディタオルの表面側と裏面側とで、肌触りが異なるのである。
すなわち、図５（ａ）の表面側は、編地の全てのループの表目７１が現れて、肌に対する感触が硬め（刺激が強め）であり、図５（ｂ）の裏面側は、編地の全てのループの裏目７２が現れて、肌に対する感触が柔らかめ（刺激が弱め）となるのである。
【００３１】
このことは、ボディタオル１ａの引っ張り状態で視認し易くなり、図３（ｂ）ではクリンプ編地３においてループの表目３１が凸状に現れるのに対して、図４（ｂ）ではクリンプ編地３においてループの裏目３２が滑らかに現れることとなる。
したがって、ボディタオル１ａは、丸編平編組織の特性により、表裏反転して２種の使用時の肌触りの選択ができ、簡単な構成のボディタオルでありながら、入浴時の状況によって肌触りの使い分けができるのである。
【００３２】
また、ボディタオル１ａは、両端の開口部５により、固形又は液体石けんを筒状内部に挿入することで良好な泡立てができるとともに、使用洗濯後に筒状内部を広げて干すことにより干し時間も短縮できるのである。
【００３３】
＜実施の形態２＞
次に、実施の形態２を図６～図９に基いて説明する。
実施の形態２のボディタオル１ｂは、実施の形態１のボディタオル１ａにおける編地の構成の一部を変えたものであり、実施の形態１のボディタオル１ａと異なる構成について、主として説明する。
【００３４】
ボディタオル１ｂは丸編みにより平編組織に編まれて、筒状に形成されており、図６に示すように、筒状の空間を密着させた自由状態で、長手方向の長さが約７０ｃｍで、幅が約２３ｃｍに形成されている。
そして、ボディタオル１ｂは、パイル編地２、クリンプ編地３及びフィラメント糸が編まれた第三編地６が長手方向に対してらせん状に配列され、長手方向の両端が開口し両端にそれぞれ解れ止め５１が綿糸により縫製されて開口部５が形成され、開口部５により表裏反転して使用可能とされている。
【００３５】
ボディタオル１ｂは、長手方向に対して６コースでらせん状に編成されており、１コースのパイル編地２と、３コースのクリンプ編地３と、２コースの第三編地６とから編成されている。
パイル編地２は、１２００デニールのポリエステル撚糸であり、芯糸と、芯糸の周りに多数のループが形成される花糸と、花糸の上から巻きつけられる押さえ糸とを備えた意匠撚糸を用いて編成されている。
【００３６】
パイル編地２における芯糸、花糸及び押さえ糸はいずれもポリエステル繊維から形成され、芯糸は４８フィラメントで１５０デニール、花糸は４８フィラメントで１５０デニールの２本からなり、押さえ糸は３６フィラメントで７５デニールである。
クリンプ編地３は、７２フィラメントで４２０デニールの６６ナイロンクリンプ糸を用いており、パイル編地２を形成している意匠撚糸の太さ１２００デニールよりも細い糸にクリンプが付与されたクリンプ糸を用いて編成されている。

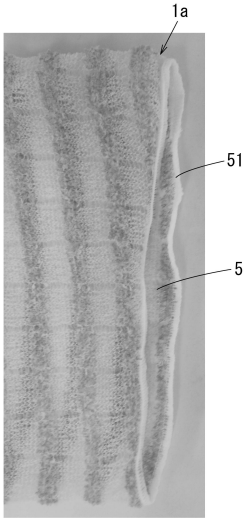
【００３７】
第三編地６は、４８フィラメントで１５０デニールの２本のポリエステル糸を用いて編成されており、第三編地６により、肌触りを柔らかくする機能の付加をしている。。
そして、６コースでらせん状に編成されたボディタオル１ｂは、図８（ａ）、図９（ａ）において、１コースのパイル編地２と、１コースのクリンプ編地３と、１コースの第三編地６と、１コースのクリンプ編地３と、１コースの第三編地６と、１コースのクリンプ編地３とからなる６コースの編地２、３、６が、らせん状に繰り返されている。
【００３８】
また、ボディタオル１ｂは、１０ウエール毎に１ウエールが針抜きされた編地４とされており、視覚的な模様と使用時の泡の流通の容易化を図っている。
なお、実施の形態２のボディタオル１ｂが、丸編みにより平編組織に編まれ、筒状に形成され、長手方向の両端に形成された開口部５により表裏反転して使用可能としたことによる特徴については、実施の形態１と同様であり、ボディタオル１ｂの引っ張り状態における図８（ｂ）ではクリンプ編地３及び第三編地６においてループの表目３１、６１が凸状に現れるのに対して、図９（ｂ）ではクリンプ編地３及び第三編地６においてループの裏目３２、６２が滑らかに現れることとなる。
【００３９】
また、実施の形態２のボディタオル１ｂは、クリンプ編地３及び第三編地６の繊維素材が、実施の形態１のボディタオル１ａのクリンプ編地３の繊維素材よりも柔らかいために、実施の形態２のボディタオル１ｂは実施の形態１のボディタオル１ａよりも肌触りが表裏とも柔らかく形成されている。
＜実施の形態の変形例＞
以上の実施の形態１及び実施の形態２では、ボディタオル１ａにおけるパイル編地及びクリンプ編地について、さらに実施の形態２では、ボディタオル１ｂにおける第三編地について、素材や糸の構成を具体的に説明したが、他の素材への変更や構成の変更ができることはもちろんである。
【００４０】
また、以上の実施の形態１では、クリンプ編地のコース数を１０とし、パイル編地のコース数を２とし、実施の形態２では、クリンプ編地のコース数２をとし、パイル編地のコース数を１としたが、クリンプ編地のコース数を２～１６とし、パイル編地のコース数を１～３であって、クリンプ編地のコース数をパイル編地のコース数よりも多く形成するようにしてもよい。
また、以上の実施の形態１及び実施の形態２では、１０ウエール毎に１ウエールが針抜きされた編地としたが、５～１５ウエール毎に１ウエールが針抜きされた編地としてもよく、針抜きされた編地を編成しなくてもよい。
【符号の説明】
【００４１】
１ａ　ボディタオル
１ｂ　ボディタオル
２　　パイル編地
３　　クリンプ編地
４　　針抜きされた編地
５　　開口部
５１　解れ止め
６　　第三編地

【図面】

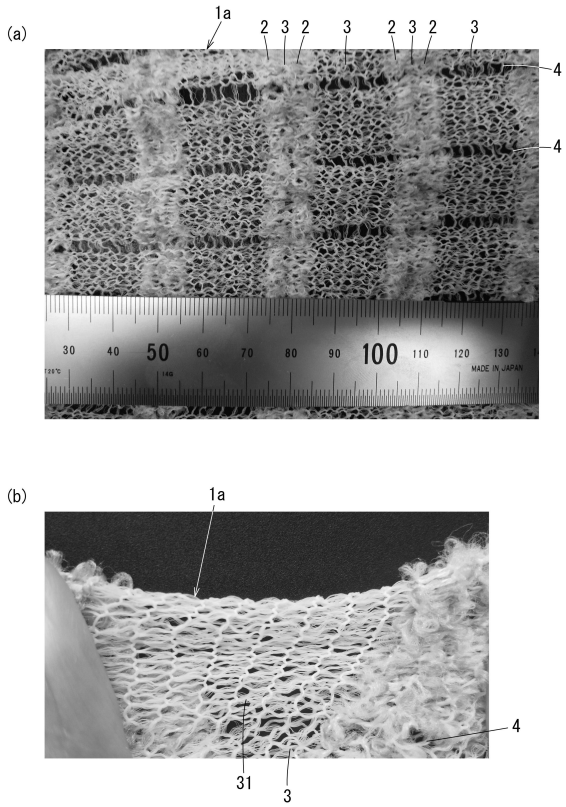
【図１】


5, 51
1a
5, 51

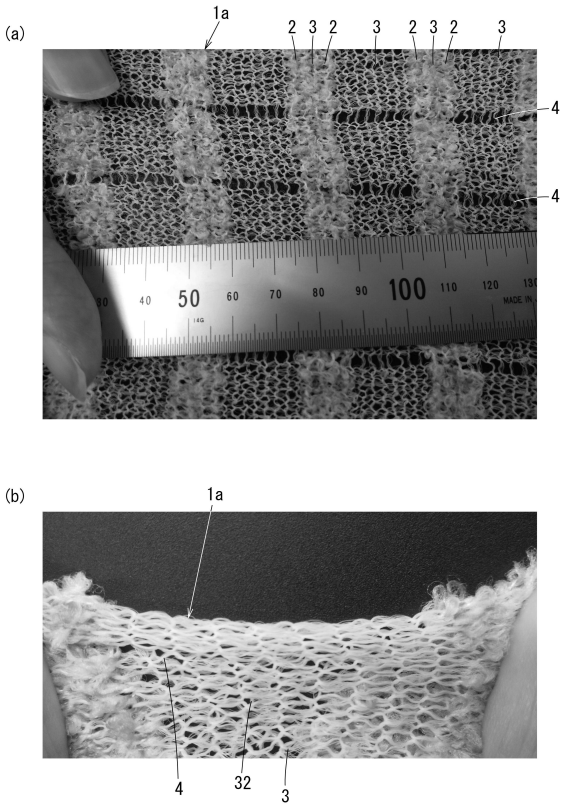
【図２】


1a
51
5

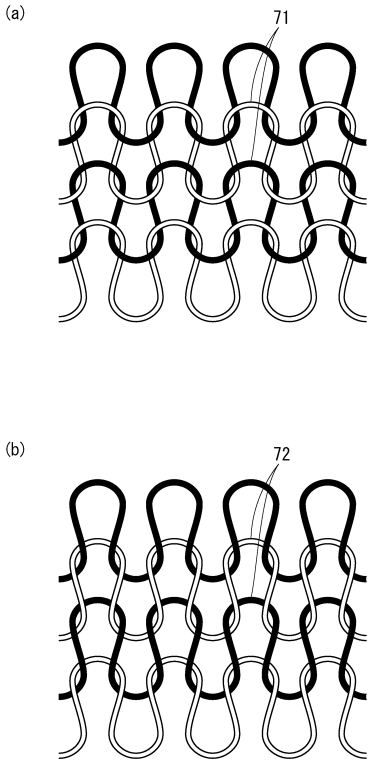
【図３】


(a)
1a
2 3 2 3 2 3 2 3
4
4
30 40 50 60 70 80 90 100 110 120 130
(b)
1a
4
31
3

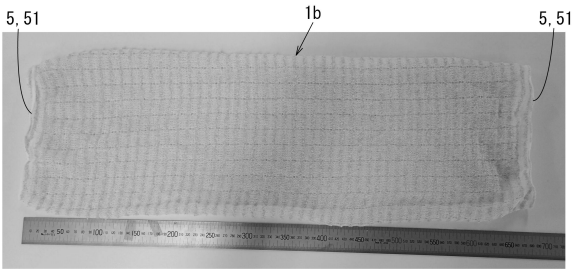
【図４】


(a)
1a
2 3 2 3 2 3 2 3
4
4
40 50 60 70 80 90 100 110 120
(b)
1a
4
32
3

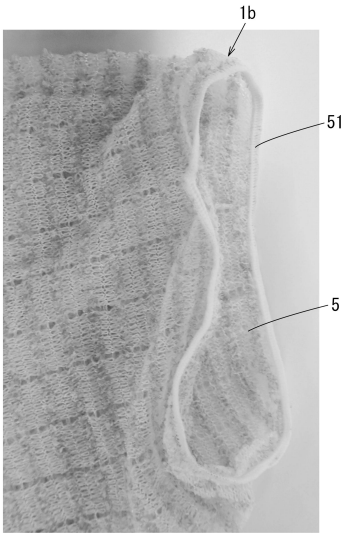
【図５】


(a)
71
(b)
72

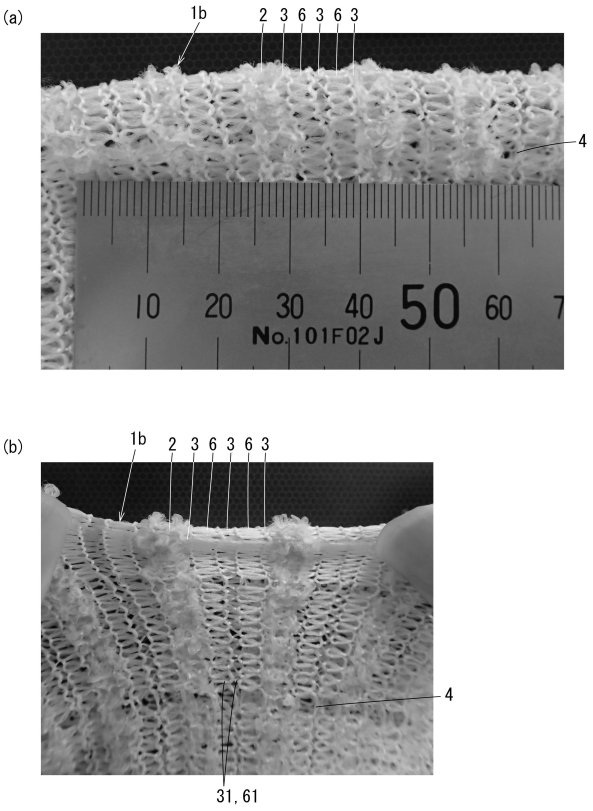
【図６】


5, 51
1b
5, 51

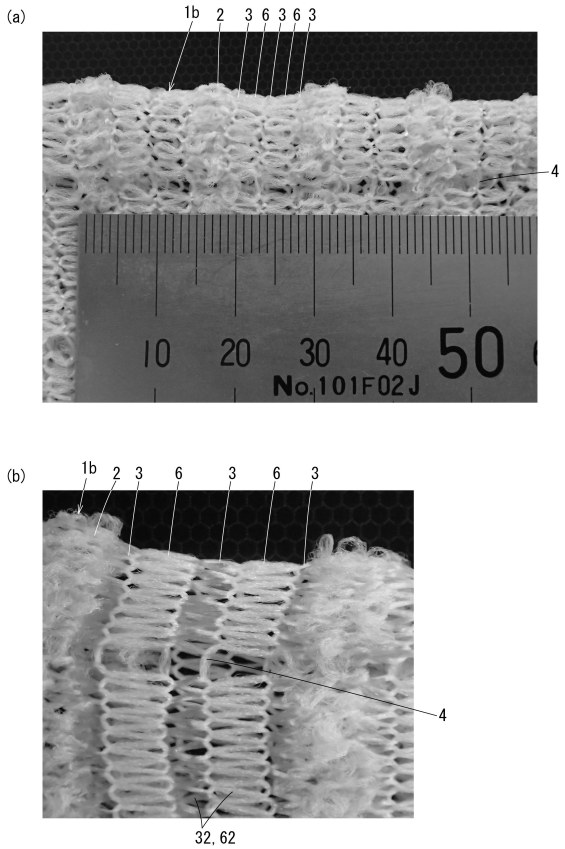
【図７】


1b
51
5

【図８】


(a)
1b
2 3 6 3 6 3
4
10 20 30 40 50 60
No.101F02J
(b)
1b
2 3 6 3 6 3
4
31, 61

【図９】



フロントページの続き

６番地の３
(72)発明者　北村 剛士
和歌山県和歌山市森小手穂１２８番地 キクロン株式会社内
(72)発明者　根木 伴起
和歌山県和歌山市森小手穂１２８番地 キクロン株式会社内

審査官　神尾 寧

(56)参考文献　特開２０１０－１９６１９９（ＪＰ，Ａ）
特開２０２０－０１０８７６（ＪＰ，Ａ）
特開昭５７－０３４８２２（ＪＰ，Ａ）
特開２０２０－００５６８８（ＪＰ，Ａ）
特開２０１６－０４３１６０（ＪＰ，Ａ）

(58)調査した分野　(Int.Cl.，ＤＢ名)
Ａ４７Ｋ　７／０２
Ａ４７Ｋ　１０／０２